

平成23年 漁況通報(年報)

平成24年3月6日
大阪府環境農林水産総合研究所
水産技術センター

●巾着網(中部標本船)

○カタクチイワシは昨年に比べて漁獲が減少した(図1)。

●船びき網(南部標本組合)。

○イワシシラスは、昨年に比べて春・秋ともに減少したが、8月に平年の6倍程度の漁獲があった(図2)。

○イカナゴは、昨年に比べて漁期は短かったが、豊漁であった(図3)。

●サワラ流し網(南部標本組合)

○サワラは、春漁は不漁であったが、秋漁は9月は豊漁であり、10月以降は平年並みであった(図4)。

●アナゴ籠(中部標本組合)

○マアナゴは、2月は平年以上の漁獲があったが、他の月は平年以下の漁獲であった(図5)。

●小型底びき網

石げた網(中部標本組合)

○シタ類は、年間を通して平年並みかやや低めの漁獲であった(図6)。

○メイタガレイは、2月から7月にかけて豊漁であったが、8月以降はほぼ平年並みの漁獲であった(図7)。

○マコガレイは、年間を通して平年以下の漁獲であり、不漁であった(図8)。

○ヒラメは、年間を通してほぼ平年並の漁獲であったが、12月が豊漁であった(図9)。

○ネズッポ類(ガッチョ)は、5月から9月は、ほぼ平年並の漁獲であったが、10月以降は不漁であった(図10)。

○ガザミ(ワタリガニ)は、1月から7月にかけて昨年よりも豊漁であり、年間を通じて平年以上の漁獲があった(図11)。

○ヨシエビ(シラサエビ)は、8月は平年の2倍以上の漁獲があり、他の月はほぼ平年並の漁獲であった(図12)。

○クマエビ(アジアカ)は、9月は平年並みの漁獲であったが、10月以降は豊漁であった(図13)。

○シャコは、年間を通じて不漁であった(図14)。

図1

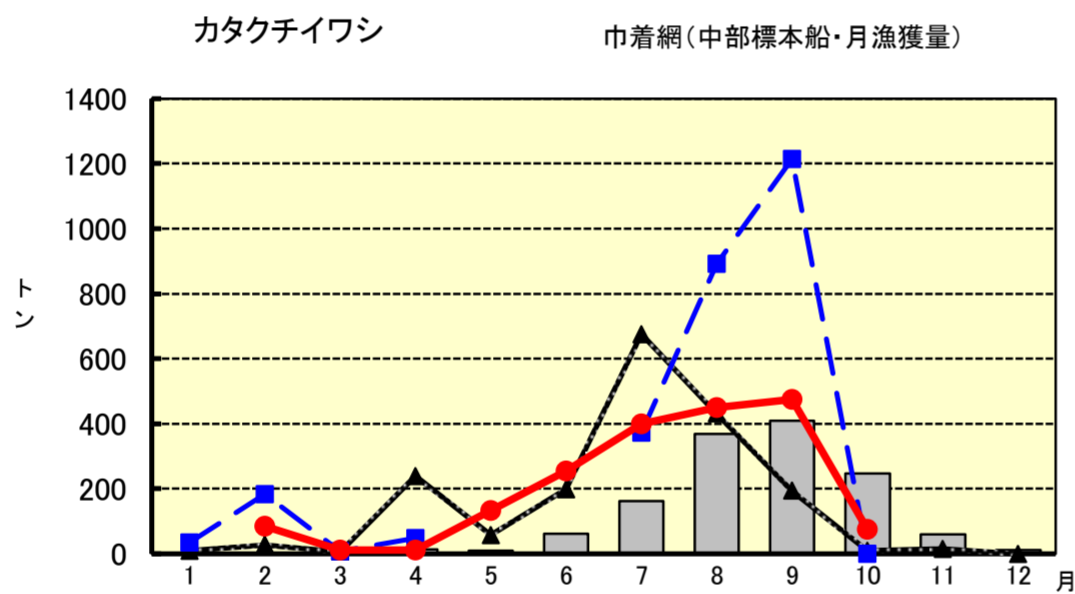


図2

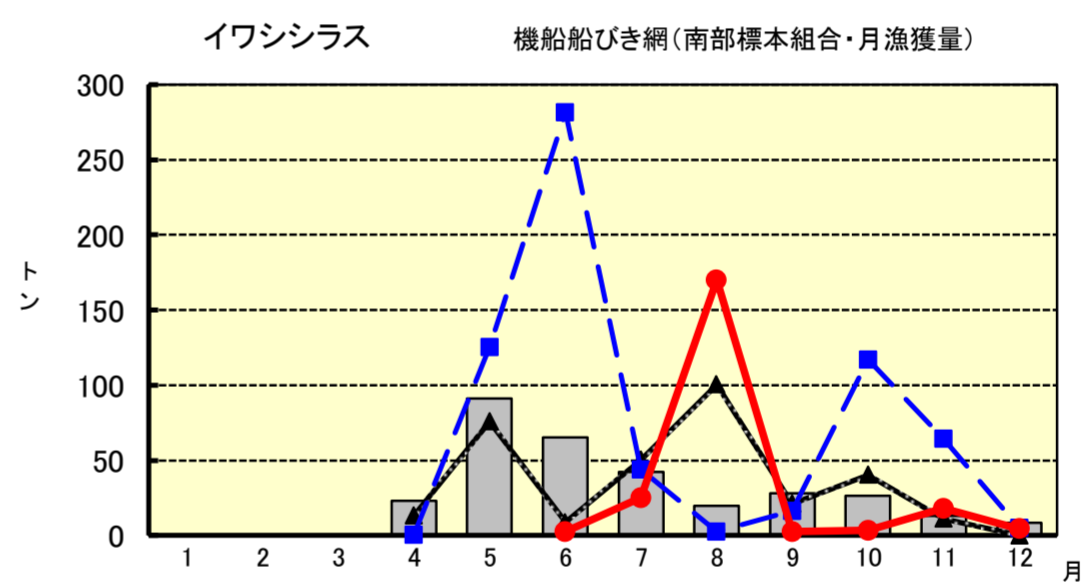


図3

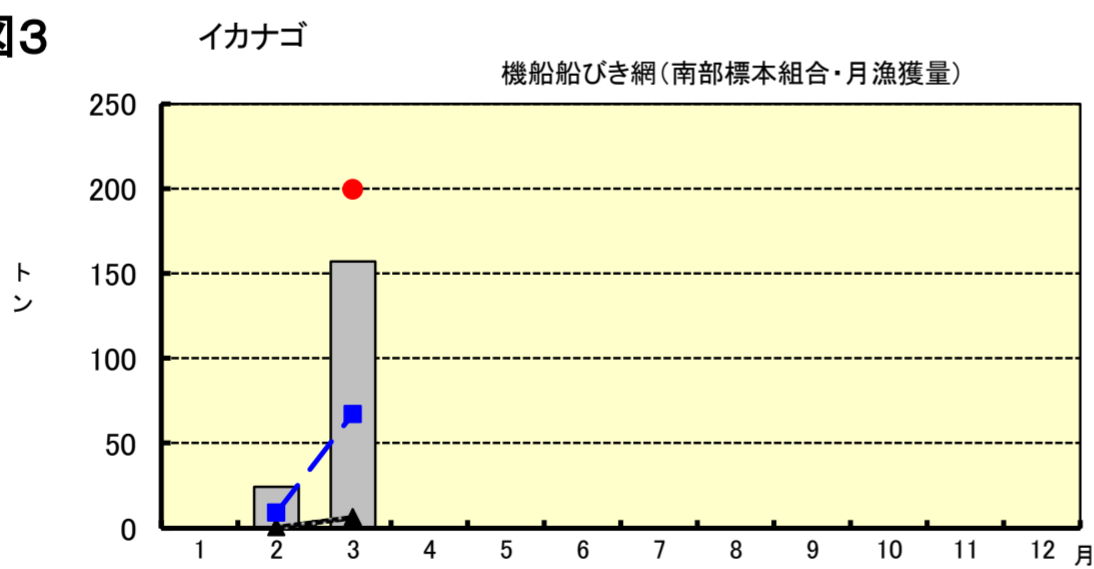


図4

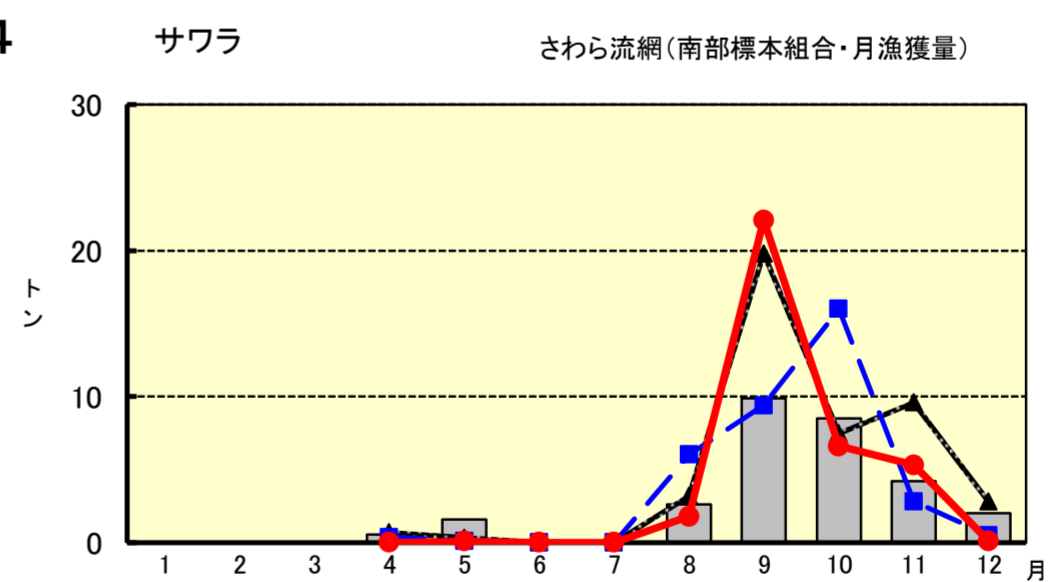


図5

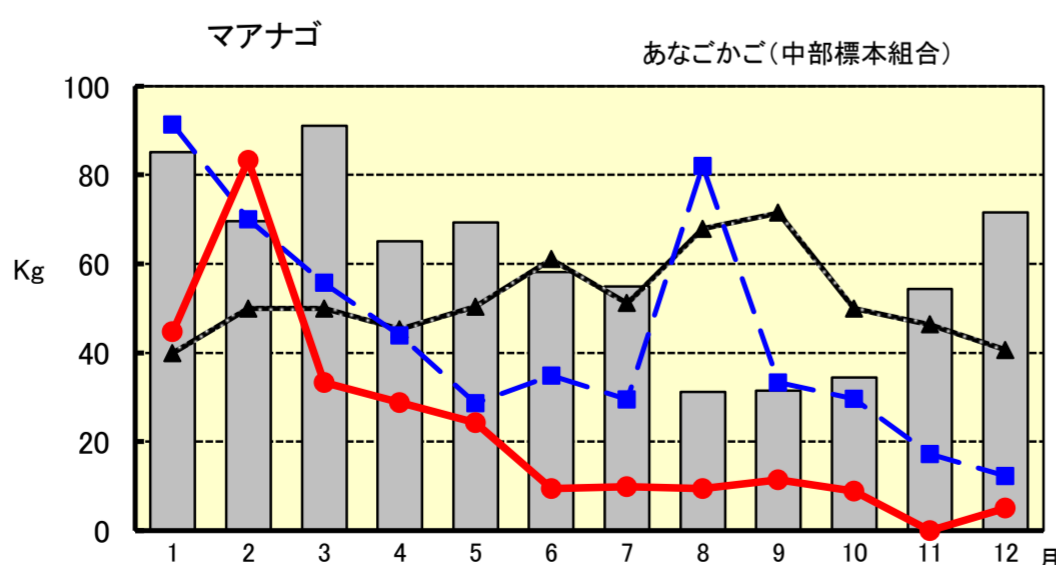
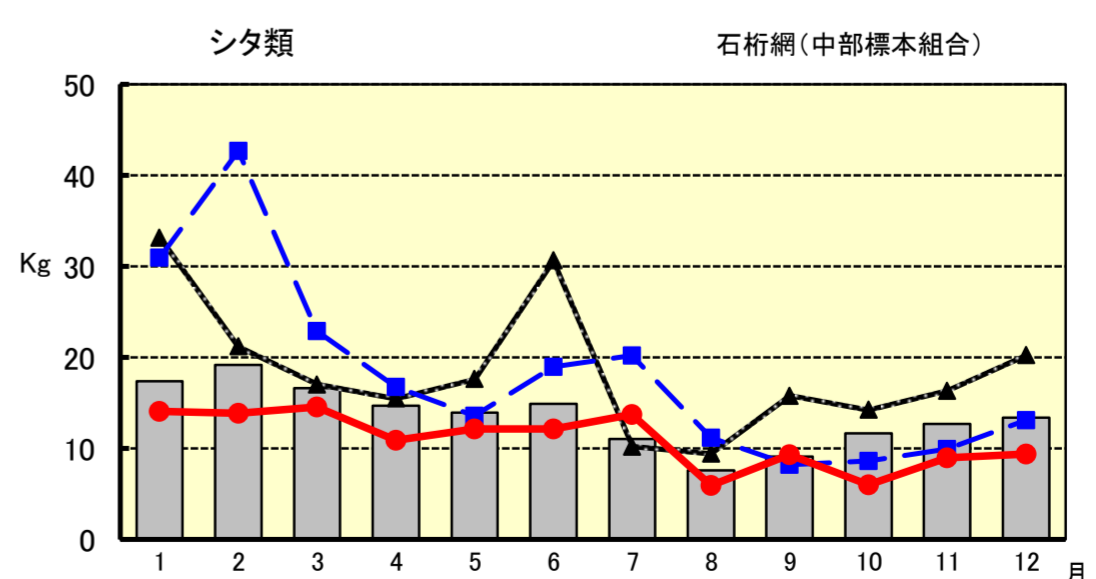


図6



1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。(図1~4は、月漁獲量を示す)

■ 平年値 ● 平成23年 -■- 平成22年 ▲ 平成21年

図7

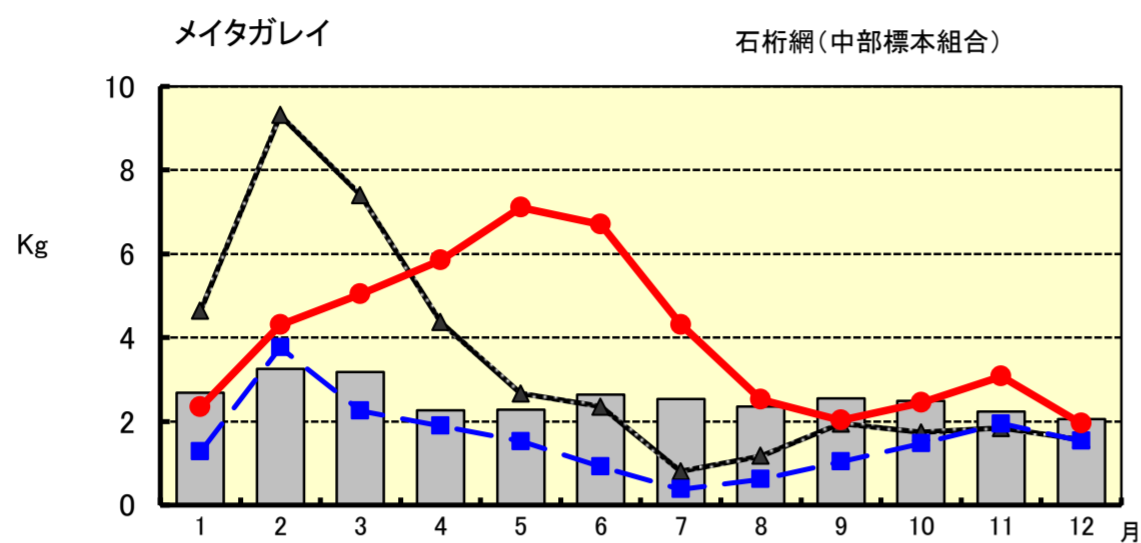


図8

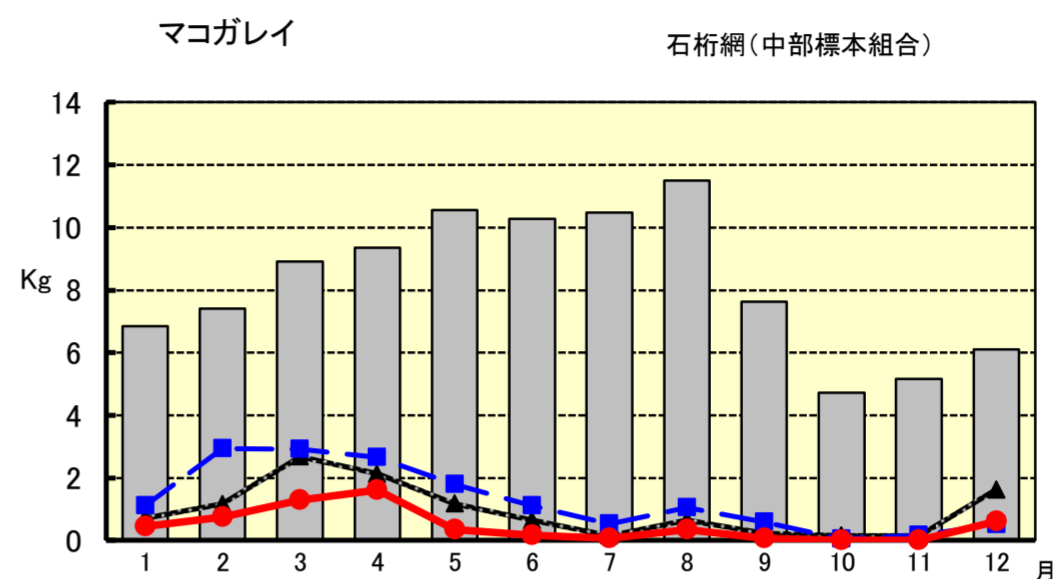


図9

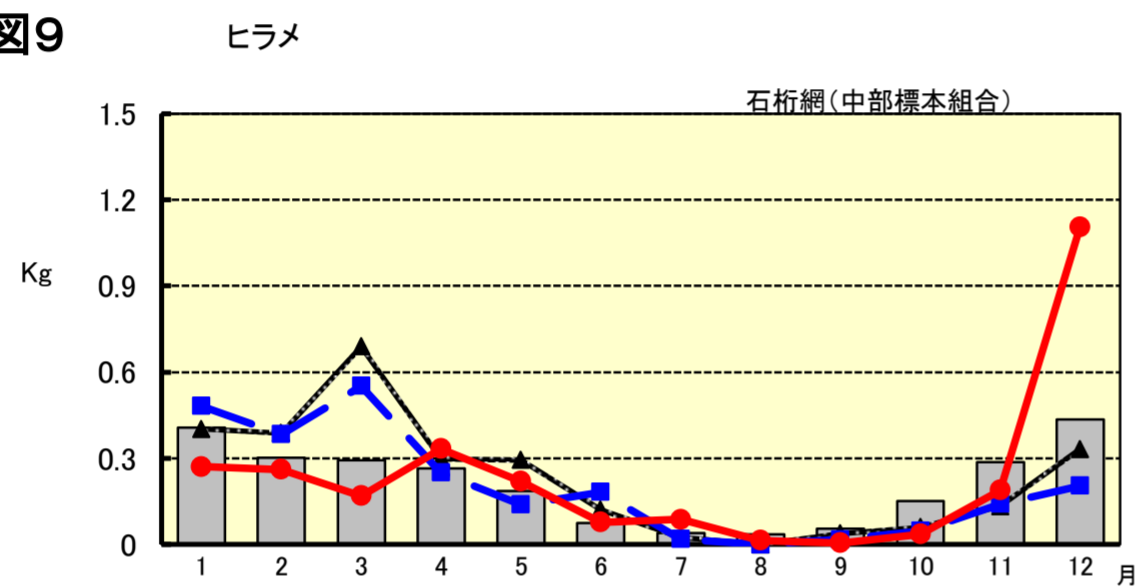


図10

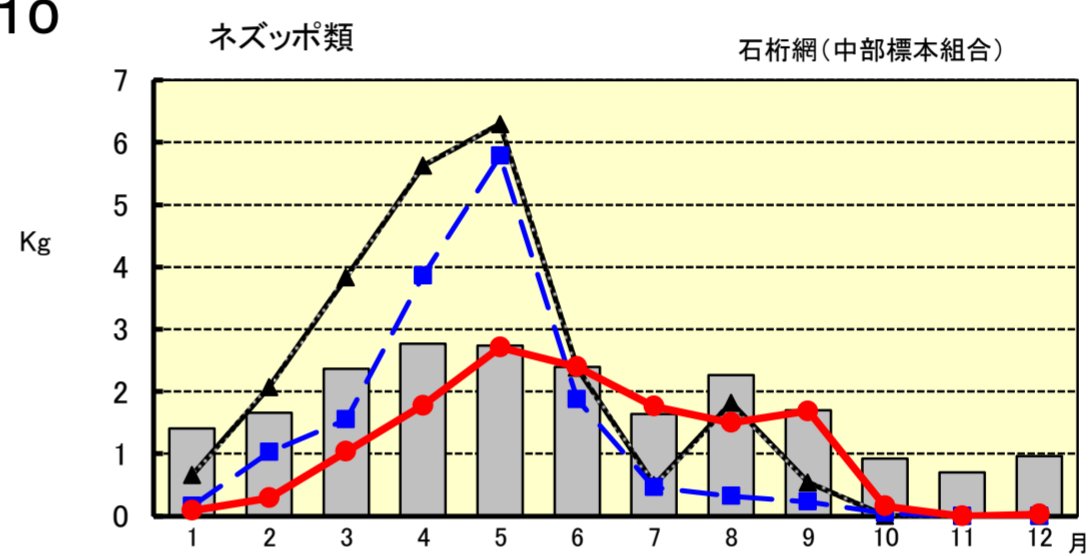


図11

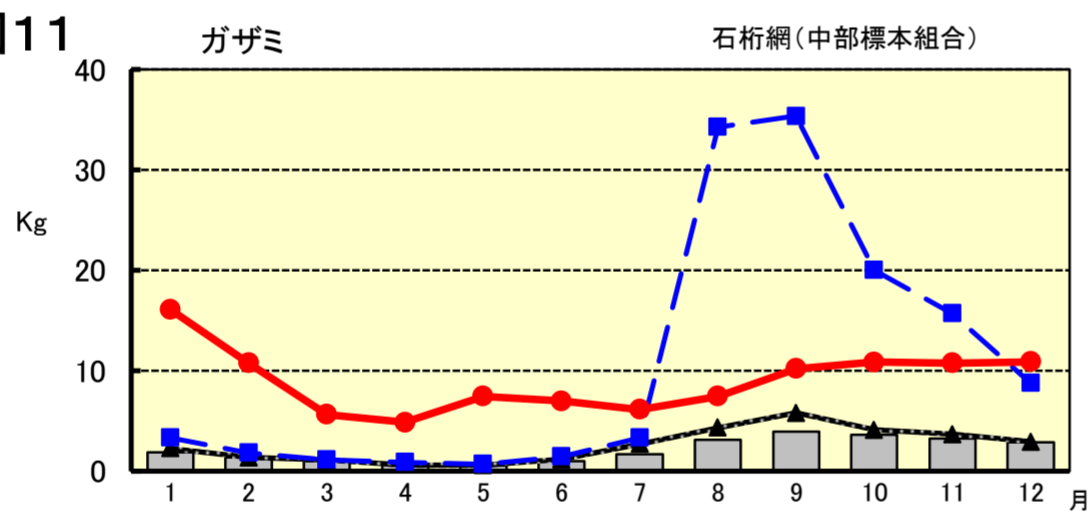


図12

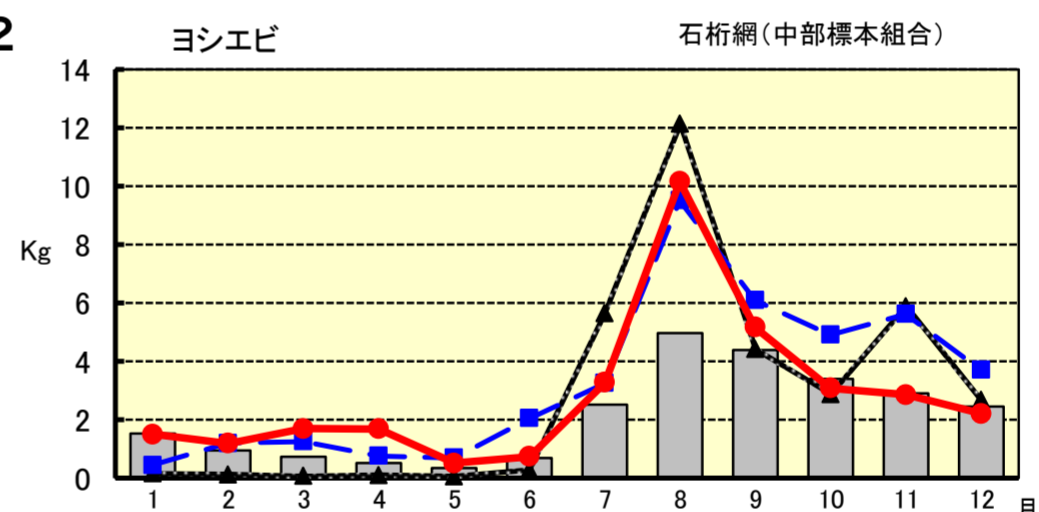


図13

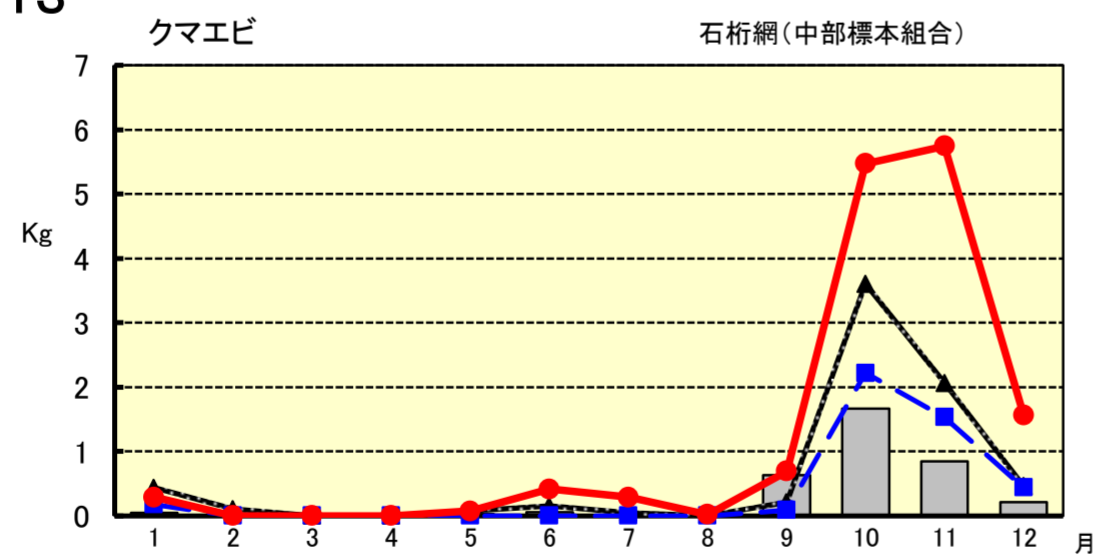
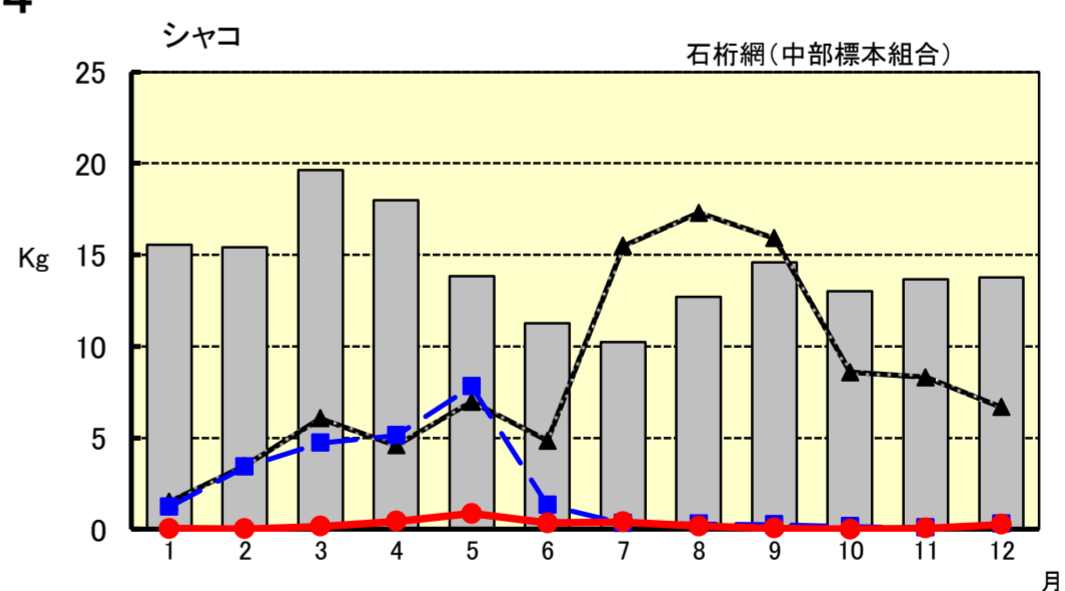


図14



1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。

■ 平年値

● 平成23年

■ 平成22年

▲ 平成21年

- 小エビ類は、8月・9月は平年以上の漁獲があったが、他の月は平年以下の漁獲であった(図15)。
- トリガイは、1月から5月にかけて平年以上の漁獲があり、8月・9月にも平年以上の漁獲があった(図16)。
- アカガイは、3月に平年以上の漁獲があったが、他の月は平年並みか平年以下の漁獲であった(図17)。
- マダコは、年間を通じて平年以下の漁獲であり、特に、7月・8月は不漁であった(図18)。
- コウイカ類は、年間を通じて平年以上の漁獲があり、特に、9月から12月にかけて豊漁であった(図19)。

図15

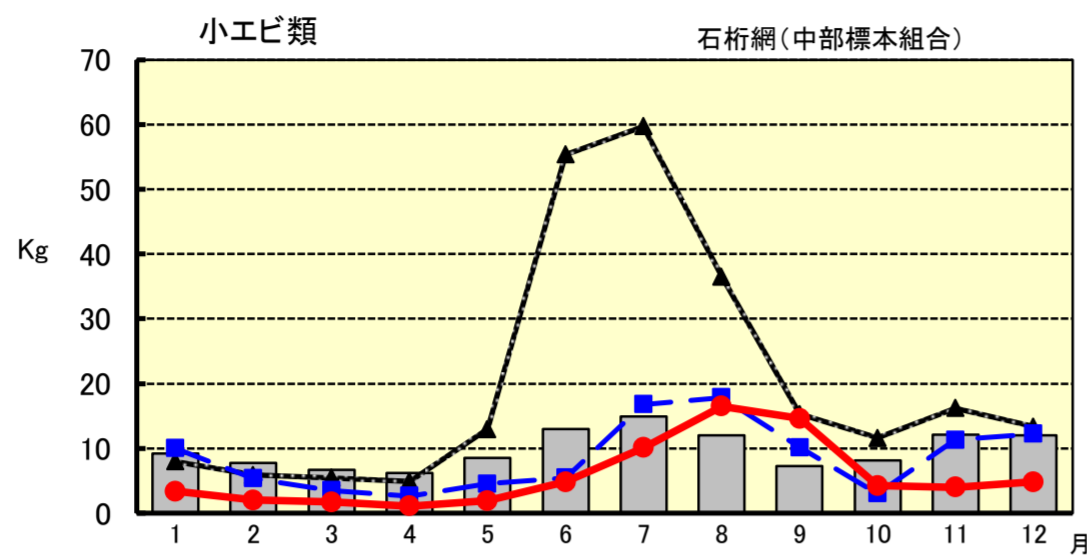


図16

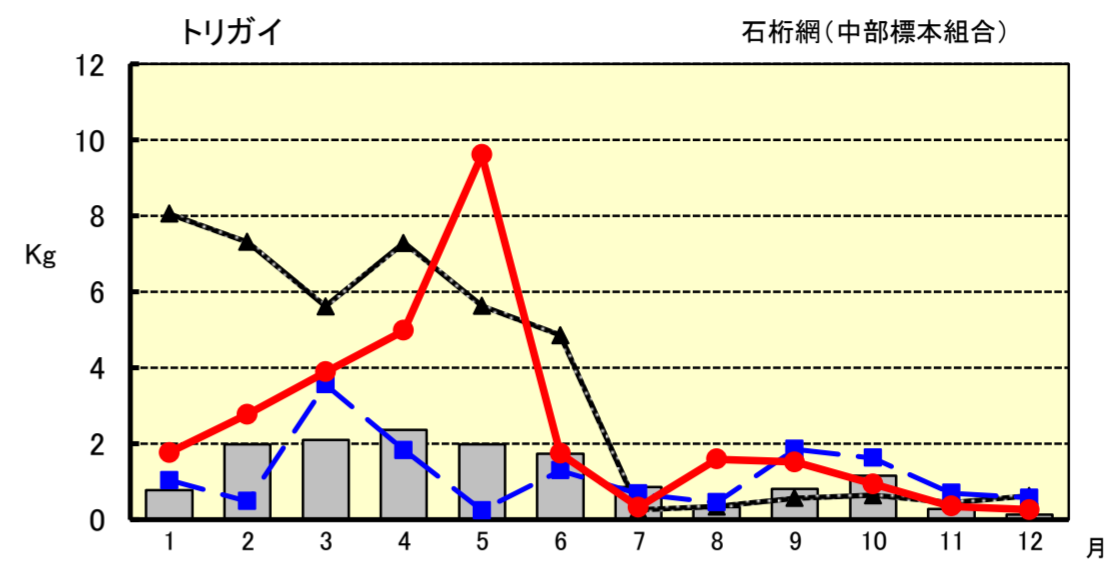


図17

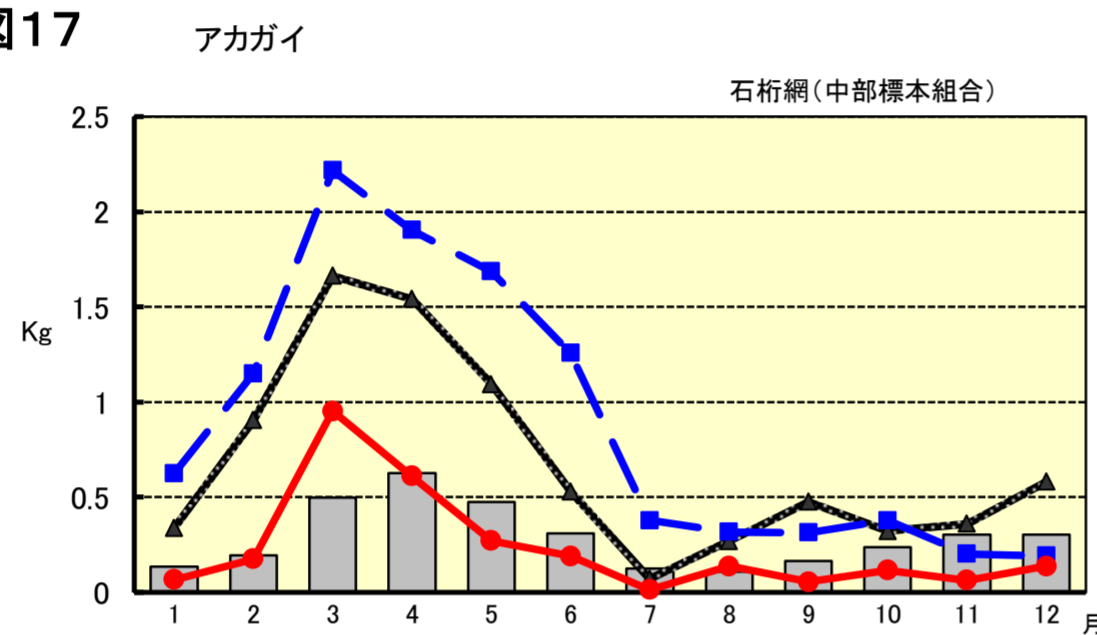


図18

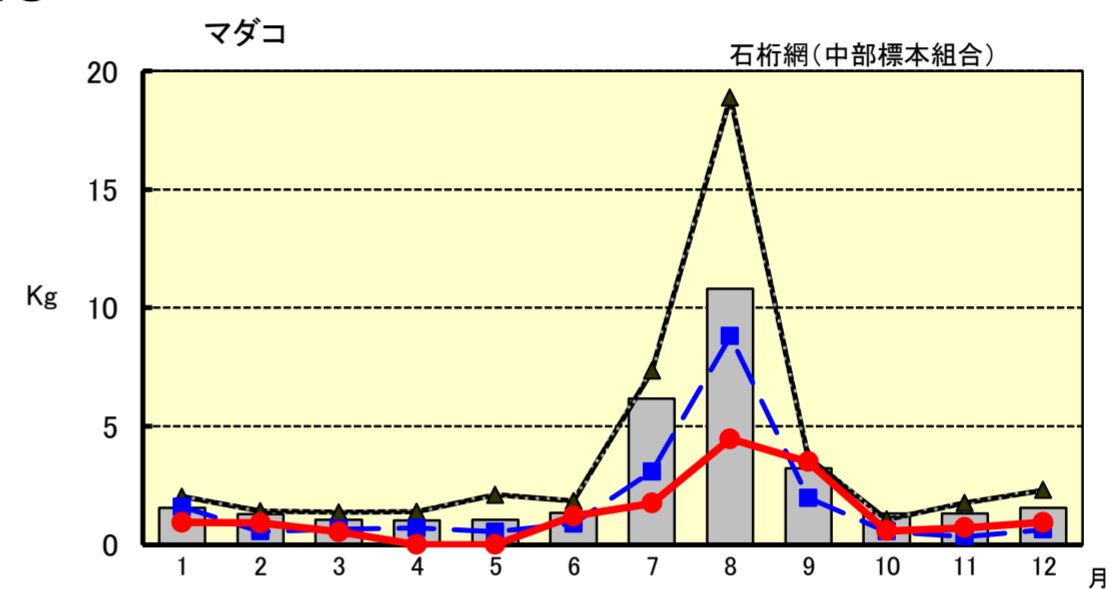


図19

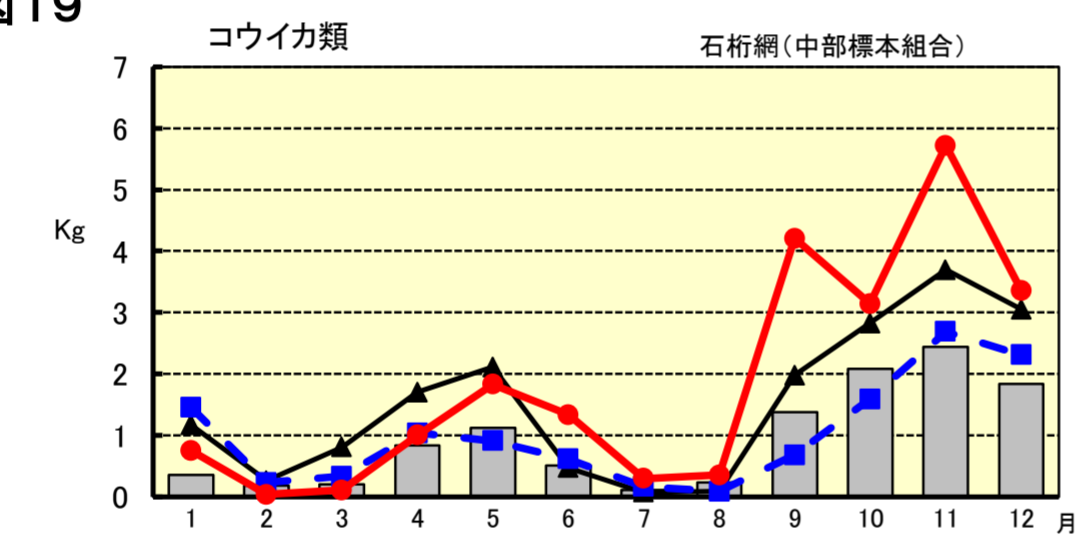


図20

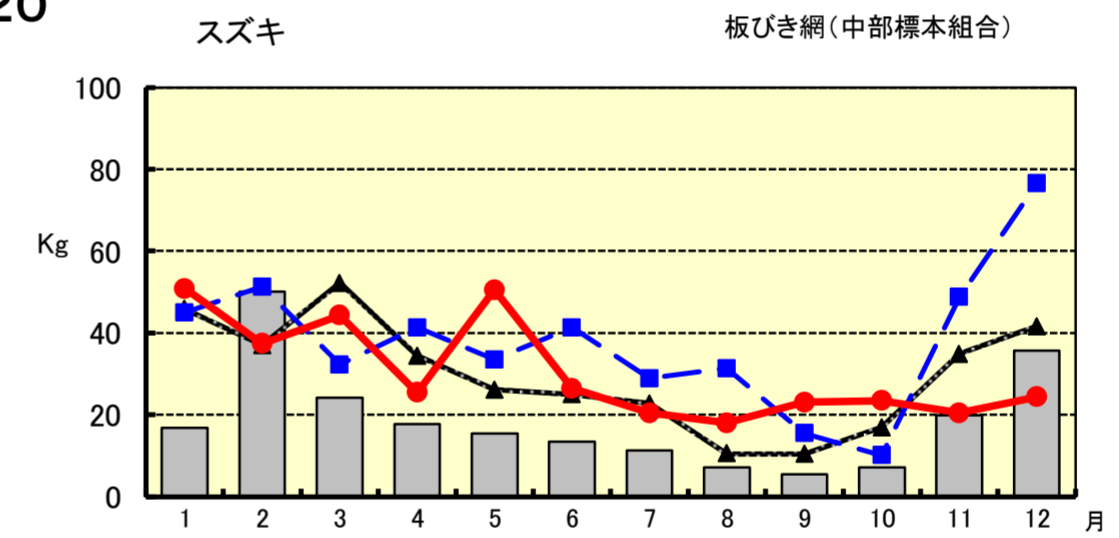


図21

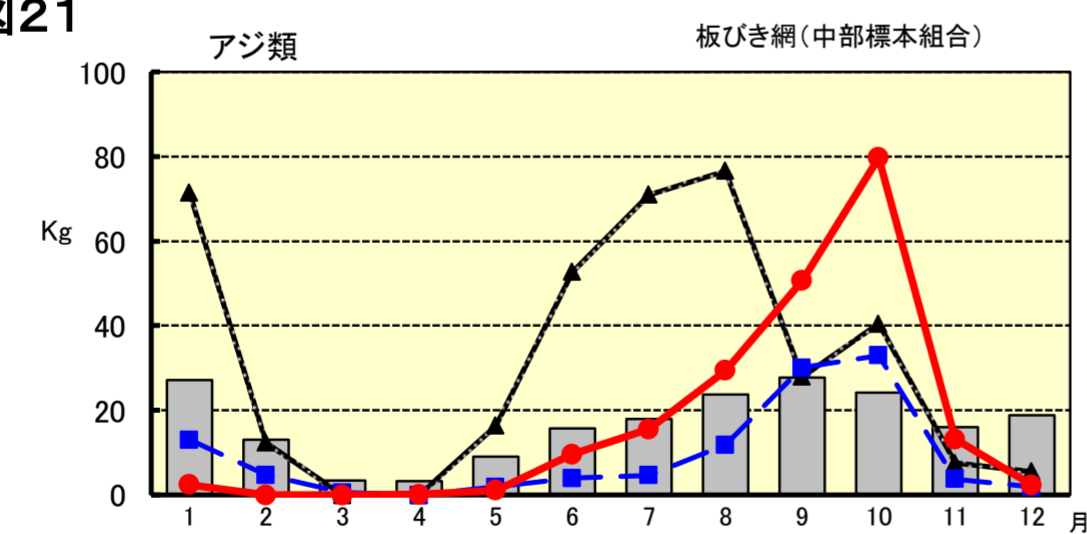


図22

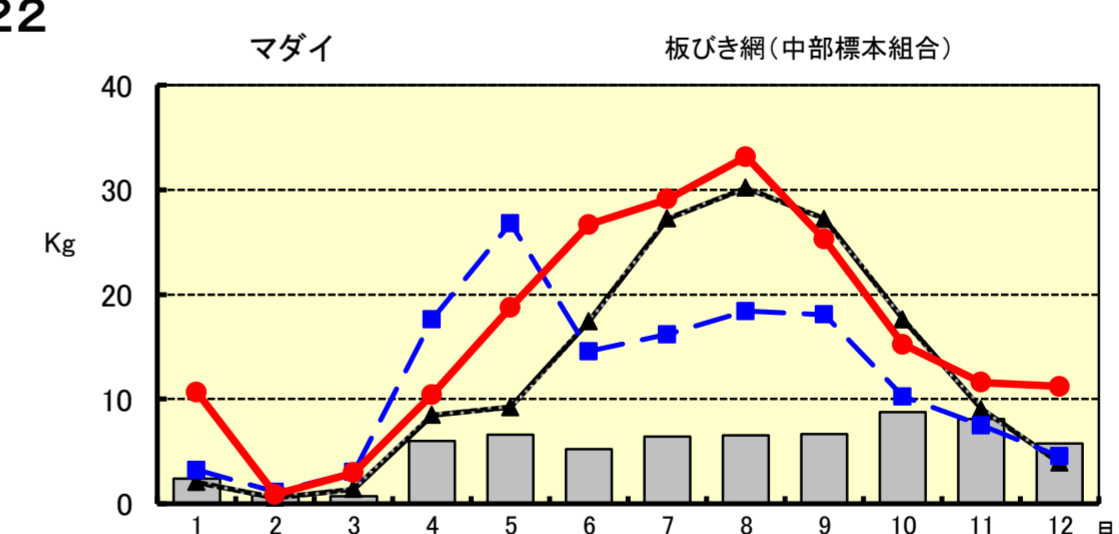


図23

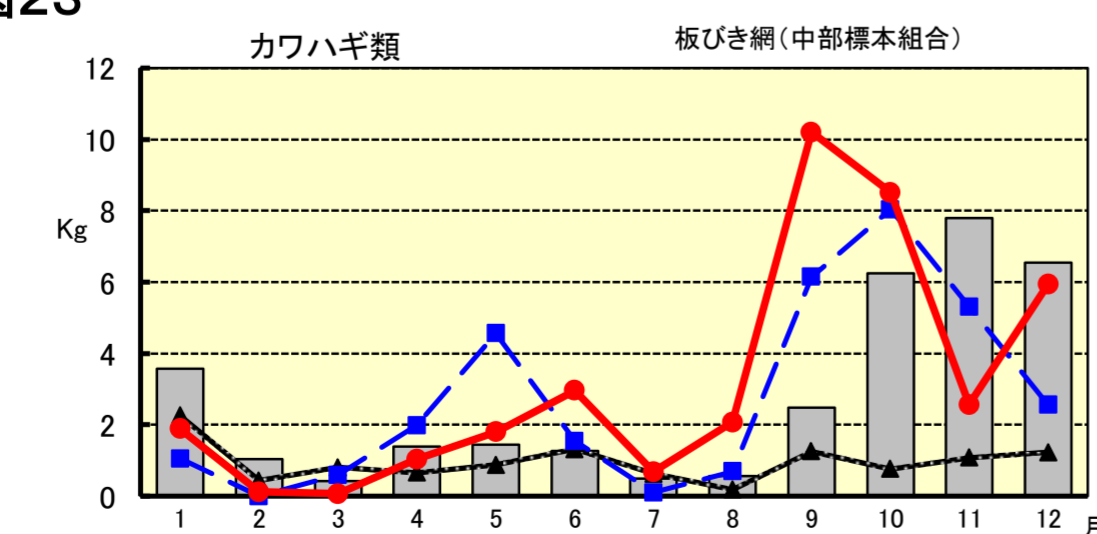
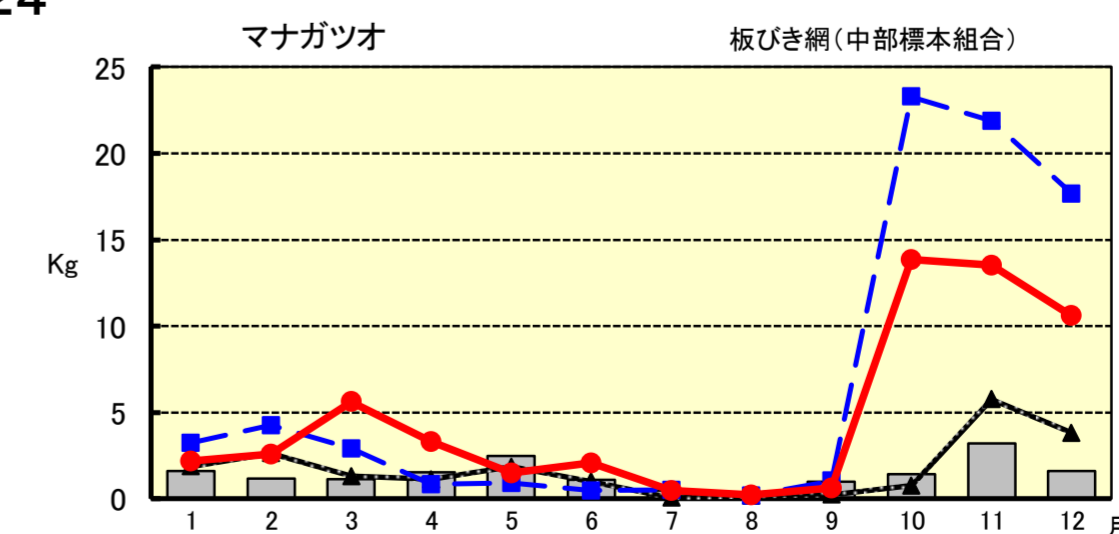


図24



1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。

■ 平年値 ● 平成23年 ■ 平成22年 ▲ 平成21年

● 小型底びき網

板びき網

- 中部のスズキは、ほぼ平年以上の漁獲があったが、昨年に比べ11・12月の漁獲が少なかった(図20)。
- 中部のアジ類は、8月から10月にかけて平年以上の漁獲があり豊漁であった(図21)。
- 中部のマダイは、年間を通じて平年以上の漁獲があり、豊漁であった(図22)。
- 中部のカワハギは、5月から10月にかけて平年以上の漁獲があった(図23)。
- 中部のマナガツオは、昨年と同様に、10月から12月にかけて漁獲が急増した(図24)。
- 中部のハモは、6月から10月にかけて平年以上の漁獲があり、豊漁であった(図25)。
- 中部のクロダイは、5月に漁獲が急増し、年間を通じて平年以上の漁獲があった(図26)。
- 中部のシログチは、1月と2月は豊漁であったが、他の月は、ほぼ平年並の漁獲であった(図27)。
- 中部のイボダイは、8月に漁獲が増えたが、年間を通じて平年以下の漁獲であった(図28)。
- 中部のマダコは、7月から9月にかけて漁獲が増加したが、年間を通じて平年以下の漁獲であった(図29)。
- 南部のキスは、1月から4月にかけてほぼ平年以上の漁獲があったが、他の月はほとんど漁獲がなかった(図30)。
- 南部のジンドウイカは、1月から7月にかけて漁獲があったが、8月以降は漁獲がなかった(図31)。
- 南部のコウイカは、1月と12月に平年以上の漁獲があったが、他の月は平年以下の漁獲であった(図32)。

図25

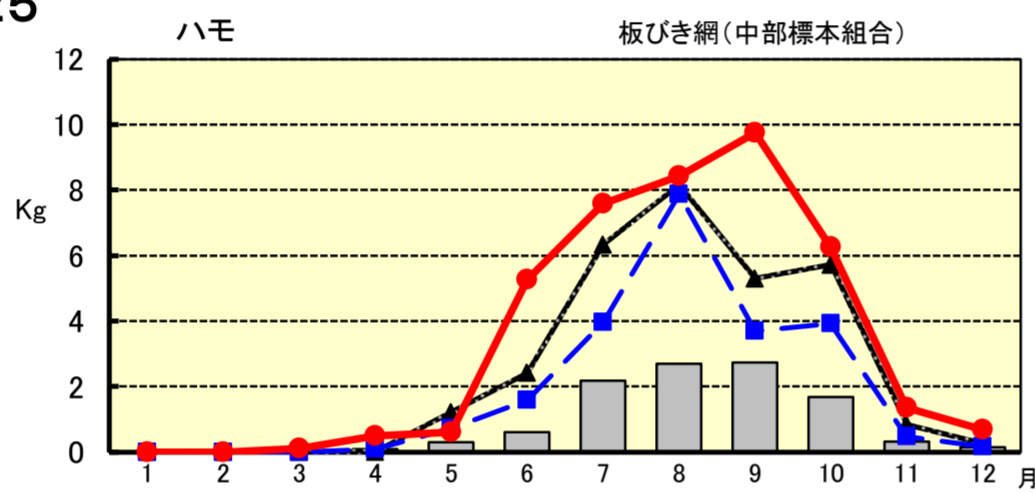


図26

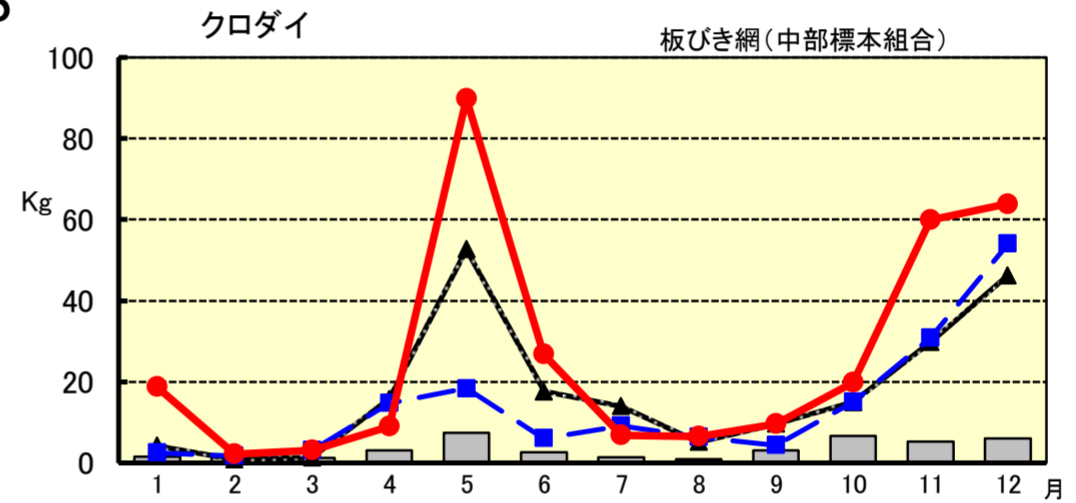


図27

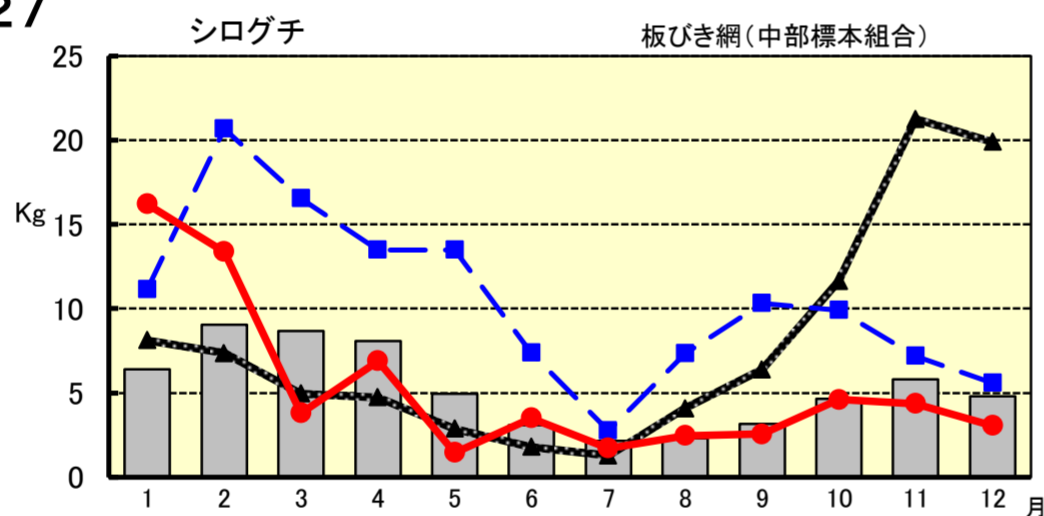


図28

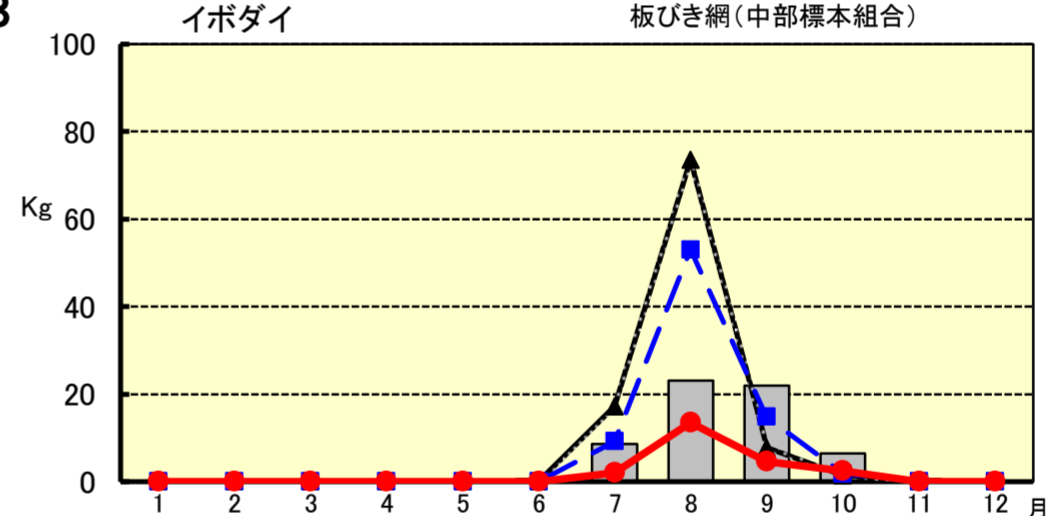


図29

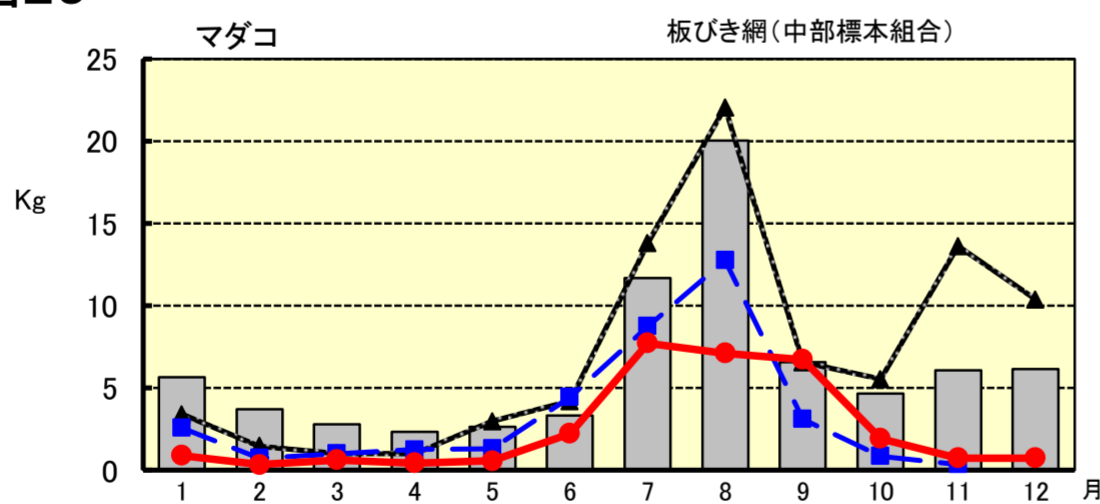


図30

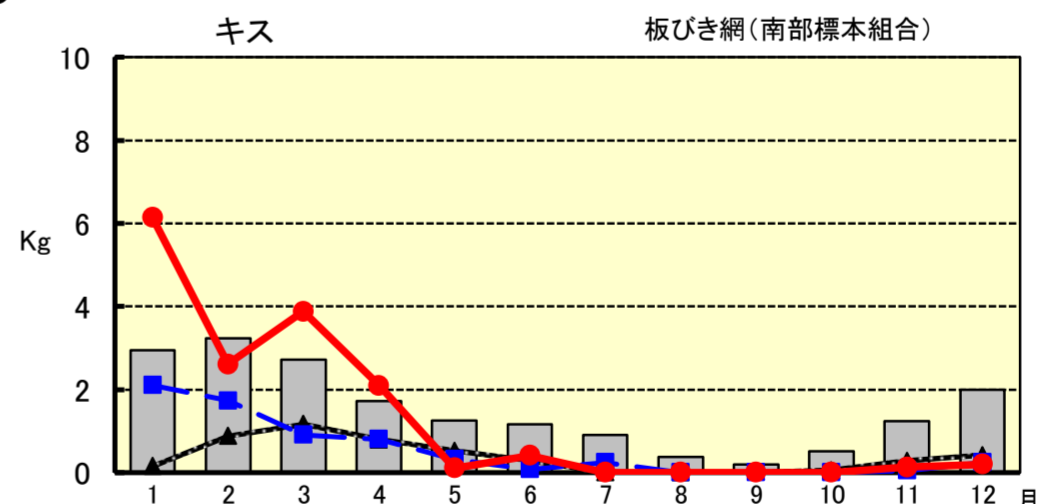


図31

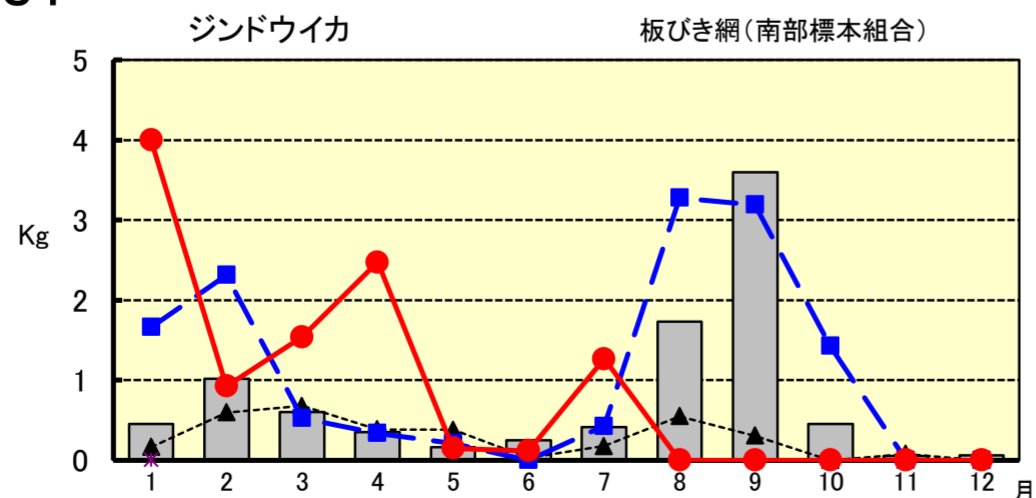
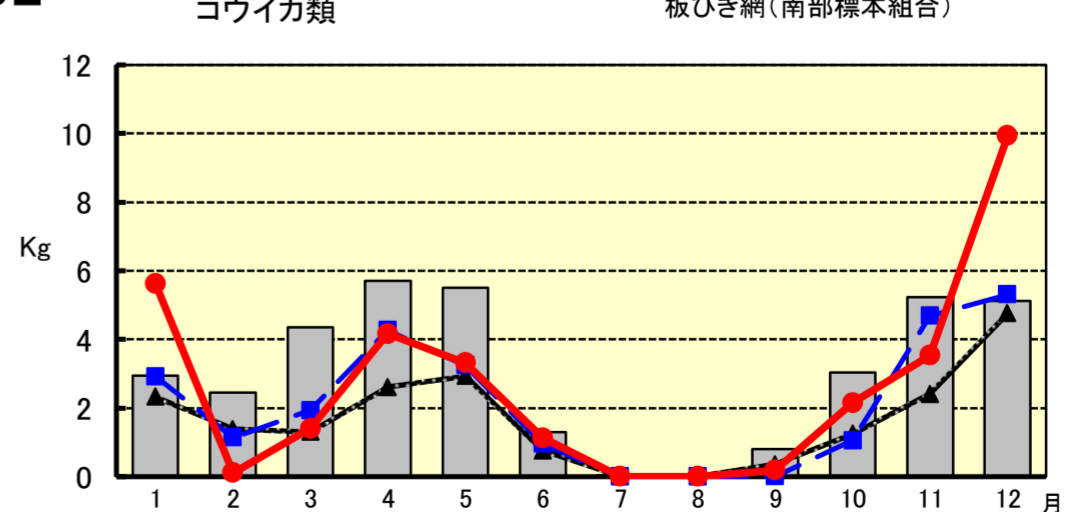


図32



1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。

■ 平年値 ●— 平成23年 ■- - 平成22年 ▲- - 平成21年